



かほく

ワークシート

問題

- ①石川啄木の出身はどこですか。
- ②「東北おんば訳」の歌を、声に出して読んでみましょう。
- ③方言の歌からはどのような感じを受けますか。

(中学／朝の会前10～15分)

歌を方言にするというのは、大胆な試みかもしれません。これは啄木が大人になってから作った歌ですが、15歳の啄木少年が、浜民方言で口ずさんでいたのではないかと考えると、その

出題者から

純粹さが一層心に迫ってくる感じがします。

(日本新聞協会NIEアドバイザー・仙台市高森中教諭 木下晴子)

うたの泉

不來方のお城の草さ寝っころんで／
空さ吸われだ／十五の心お

東北おんば訳

石川啄木(1886～1912年)のへ不來方のお城の草に寝ころびて／空に吸はれし／十五の心を大船渡市の「おんば」と呼ばれる女性たちが土地言葉で訳したものです。共通語にはない濁音の豊かで柔らかい響き、「さ」という助詞の味わいが私たちの心に滲みてきます。岩手県浜民村(現盛岡市浜民)出身の啄木も詠っていたはず。いったいどんな声と抑揚で話していたのでしょうか。この一首によつてさまざまな想像がかき立てられます。(本田一弘)

6月3日付「かほくワークシート」の模範解答

①石川啄木は、どこの出身ですか。

岩手県渋民村

③ 方言の歌からはどのような感じを受けますか。

自分の思いを、そのまま言葉にしている感じ。

素直に、飾り気なく思ったことを表現している感じ。 など。